

J R 幸田駅前の再開発として今春誕生した、幸田駅前銀座（額田郡幸田町芦谷幸田36）。食をテーマにした4つの専門店が軒を連ね、地域に密着した営業を展開している。施設が今月15日から、毎月15日に、地元の“手づくり”

黒崎敏氏）との考え方もある。テナントが決まれば、駐車場を100台規模まで広げる予定。この施設は、地域活性の拠点という位置づけのため、既存の商店街との連携にも力を入れていく。街や商店街の話題を盛り込んだ新聞を発行したり、店や

パン、野菜、魚など集結 テナント誘致説明会も



をキーワードにした市場「モノマルシェ」を開催する。地元で取れた新鮮な野菜や果物、魚、手づくりのみそやおにぎりなどを集め、販売する。さらなる集客、活性を目指す施設の取り組みを探った。

（岡崎・東山麻衣子）

今月から新たな取り組みとして始まるのがモノマルシェ。毎月15日前8時から施設中央の広場で開催される市場だ。

初回は約10店が出展予定。生パスタ、パンや焼き菓子、おにぎり、コーヒー豆、花や観葉植物、魚、野菜、みそなど多彩な品が販売される。キーワードは「手づくり」で、地元住民の心がこもった品が一堂にを集められる。

施設は4月末のオープン直後5~6月は想定を上回る売り上げがあり、夏場には約70台の駐車場が不足するほどだったという。近隣住民の「日通い」だけでなく、岡崎市や西尾市など近隣からの来店も多いといふ。

しかし、テナントが2店空いているのが現状の課題。入居者を募るために20日午後7時半から町の商工会館で説明会を開く計画だ。ローカル色を出すため、「食にこだわらず、子ども図書館や子育てステーションのような施設も視野に入れている」（街づくりプロデューサーの石

住民の「夢かなえる場」へ



広場中央で毎月「モノマルシェ」を開催する

農家がコラボレーションして商品を開発、限定期として販売する目標もある。「単に人が集まる拠点としてだけではなく、地元住民が夢をかなえる自己実現の場にしたい」（同）。実際、地元

地域経済

房わ
とうふか
おとし
おい

包装紙に生徒の絵

安城養護学校と“協業”

【高浜】豆腐製造、
販売のおとうふ工房い
しかわ（本社高浜市豊
田町1の204の2
1、石川伸社長、電話
0566・54・03
34）は、安城養護學
校（安城市桜井町）の
生徒が描いた絵を、店
舗や業務で使用する紙

袋と包装紙に用いる取
り組みを始めた。地域
貢献の一環で、継続的
な活動にするのが狙
い。

この取り組みは、障
がいを持つ人が描いた
絵をデザインした段ボ
ールを販売し、売り上
げの一部を障がい者や



約50作品から12作品を選んだ

福祉施設に還元する
「だんだんボックス」
活動の一環。同社は安
城養護学校の生徒に作
画を依頼し、14日に関
係者が集い、約50作
品の中から紙袋などの
デザインに使用する12
作品を選んだ。
作品は「笑顔で食べ
る」をテーマに描かれ、
家族との食事風景や大
豆をモチーフにしたオ
リジナルキャラクター
など豊かな発想に富ん
でいた。選ばれた作品
は、紙袋や包装紙にデ
ザインされ、11月ごろ
に完成する見通し。

。